

ルを上げたい今日この頃です。

さて、3年生になってから2ヶ月経ちました。ちょうど今学期最初の薬理学の中間テストを受けたばかりです。このテストに向けて気合いを入れようと、テスト3日前に髪を剃って五厘刈りにしたのですが、これがいけなかったようでカゼを引いてしまい、当日は38.8℃の発熱に吐き気という最悪のコンディションで受ける羽目になってしまいました。でも、そこそこいい手応えだったので満足しています。

薬理学ふくめ、3年生になってから臨床に近い基礎医学を勉強できて、2年生のときよりも個人的には楽しく勉強できています。僕は1年のときからウイルスとか細菌は好きでしたし、薬理学も難しいですが、喘息併発の心不全の人にはpropranololは禁忌だけどatenololはいい、みたいに将来自分が処方箋を書くときをイメージできて楽しいです。ウイルス学の授業では学生発表の機会があって、僕もプリオン（致死性家族性不眠病やクロイツォフェルト・ヤコブ病をおこす異常構造タンパク質）について発表させてもらいました。1年生のときに初めて、タンパク質が病気をおこすという話に惹かれて以来、何冊か本を読んできました。パソコンの使い方などを友人に教えてもらいながら、人に伝えるということの難しさも痛感しつつ、わりと好評を得るプレゼンができたので嬉しかったです。ただ病理学はやばいです。さすが基礎医学の要だけあって情報量が半端ではないようです。薬理も終わって一段落ついたので、カゼを治して取りかかりたいです。また、当たり前なのでしょうが、同じ医学分野なので病理でも薬理でも2年生のときの科目が関わってくるという現実を思い知っています。もっと勉強しておくんだっとなー、と思いますし、これを読んでいる2年生には、生化学も遺伝学もちゃんと勉強した方がいいよ！と偉そうに言いたいところですが、実際僕自信も解剖で精一杯だったのと、2年生のときにはこれがなんで大事なのか、後になってからでないと実感できないので難しいところです。その都度復習していけばいいんですかね。

僕は、部活は陸上競技部に入っています。他にも熱帯医学研究会と中国医学研究会にも入っているのですが、陸上をメインにやっていて今は医学部陸上部の副キャプテンでもあります。2ヶ月後の西医体が終わればキャプテンになります。普段の活動は全学の陸上部と一緒にやっていること、また人数が少ないこともあって、野球やサッカーに比べると仕事は少ないかもしれませんが、それでも一組織を率いることに変わりはないので、いつもチームが成長する



ためにどうするべきか考えています。うちは他のクラブと違ってOB訪問や卒業生へのアプローチを全くやってこなかったのも、まずはこういうところから始めようと、部員みんなに提案して、今月中の発送を目指してOB向けのパンフレットを作っているところです。

春休みには、東京大の医学部（鉄門）陸上部が本部で合宿するという話を聞きつけ、4泊5日の合宿に飛び入りで参加してきました。この機会に恵まれたのは本当に偶然で、この合宿の4日前に、熱医研の先輩の誘いである飲み会に参加したのですが、そこでたまたま鉄門陸上部の方と知りあいました。話をすると、この鉄門陸上部は東医体で優勝しており、5年前までは部員が5人しかいなかったのに徐々に改革して今に至る、ということでした。今後チームを率いる身としても、是非このチームから学びたいの思いで、さすが優勝校の合宿だけあってハードなメニューでしたが、5日間必死に走りました。練習だけでなく、チームの作り方、先輩としての心構えなど、本当に色々なことを学ばせてもらいました。また、「東大医学部」に対しては変な劣等感や偏見があったのですが、合宿で苦楽をともにする中で、別に普通の同じ大学生として仲良くなれました。たまたま参加した飲み会での偶然の出会いから、こんな大きなチャンスをつかむことができ、人の出会いの不思議さを感じます。

人の出会いを大切に、とは僕が入学当初から意識してきたことです。入学してすぐ、臨床講義棟での講演会で、マサチューセッツ総合病院の市瀬史先生のお話を聞いて、アメリカに留学したいという夢をもちました。また2年生の間に、生理学Iの特別講義で毛利聡先生と岡野ジェイムス先生のお話を聞きました。テルモハートの野尻知里博士のお話もおもしろかったです。これらの先生方にはたまにメールで相談に乗っていただいています。このように色々な方のお話をきいて、いまはアメリカで研究者になりたいという夢をもっています。2年生のときはテストに落ちたりして研究者なんて自信を持って口にはできませんでしたが、3年になってからはテストなんかには左右されず、2年生の復習も含めて夢のために勉強できるように努力しています。プリオンが好きなのですが、逆転写酵素の発見でセントラル・ドグマが崩れたのが1970年、タンパク質からタンパク質への合成を証明したPrusinerがノーベル賞を受賞したのが1998年、実はタンパク質から核酸が作られるという流れもあるような気がします。あと生命原始のRNA世界とか、こういう話が好きなのでこんな研究してみたいです。やっぱり英語はできないといけないので、受験時代に使った単語帳とかを引っ張りだしてきて、9月のTOEICに向けて少しずつですが勉強しています。これを読んでいる1年生は、是非1年生のうちにTOEICの勉強やってみてください。まだ受験生時代の記憶があるうちにやった方が絶対いいです。

また、最近「ペシャワールにて」という中村哲さんの本を読んで衝撃を受けました。中村医師は20年以上アフガニスタンでハンセン病を中心とする貧困層の医療に携わってきた方なのですが、医者としてこんな人生もあるのかと感嘆しました。今後も、面白そうな講演会があれば行って